

第3回 仙台城跡調査・整備委員会

資料

令和元年 11 月 11 日

仙台市教育委員会

# 1 仙台城跡の発掘調査について

## 1) 第 32 次調査（登城路跡 3 次）の成果

[調査目的] 巽門跡周辺の登城路の位置および遺構の有無の確認

- ・ 巽門跡西側の石垣の続きを明らかにし、石垣がどこまで延びているか確認する。
- ・ 江戸時代の三の丸（東丸）の形状および造酒屋敷跡平場の造成方法を明らかにする。
- ・ 江戸時代の登城路の路面を明らかにする。

[調査期間] 令和元年 7 月 1 日～10 月 31 日

[調査面積] 約 20 m<sup>2</sup>

[調査成果] 調査区内には、近現代の盛土（レンガ・ガラス片含む）や堆積土が全体に広がり、斜面部では最大で 1.3m 程度の厚さが確認できるなど、厚く堆積している。また、近現代盛土より下層では、レンガやガラス片を含まない層が検出され、時期が推定できる層では、石垣前面を覆う盛土や石垣が構築された盛土が、19 世紀以降の遺物を含むため、江戸時代の後半以降（明治時代を含む可能性もある）と考えられる。ともに 20cm 程度の厚さが確認された。なお、上層の近現代盛土には、熱で変形したガラス片が多数含まれ、巽門の焼失後に盛土された可能性が考えられる。

遺構は、調査区中央付近の、巽門跡西側石垣の延長線上で埋没していた石垣が検出された。石垣は、全長約 4m、高さ約 0.6m で、方向は北に延びたのち北西に向かって屈曲する。根切の痕跡などは確認できず、盛土上に直接石材を置いて構築されている。北に延びる石垣は、ほとんどが加工しない石材が使われ、平らな面を正面としている。使用される石材は大型の円礫が多く、30～60 cm の大きさがあり、最大で 3 段分を検出した。北西に延びる石垣は、多くが小型の川原石を割った石材で、割面を正面としている。使用される石材は小型の円礫で、20cm 程度の大きさで揃えられる。最大で 4 段分を検出した。石垣は巽門跡西側石垣の延長線上にあるが、軸線が若干ずれているため、修復されたか付け足された石垣と考えられる。石垣の年代は、19 世紀以降の遺物を含む整地土の上に造られていることから、江戸時代後半以降と考えられる。

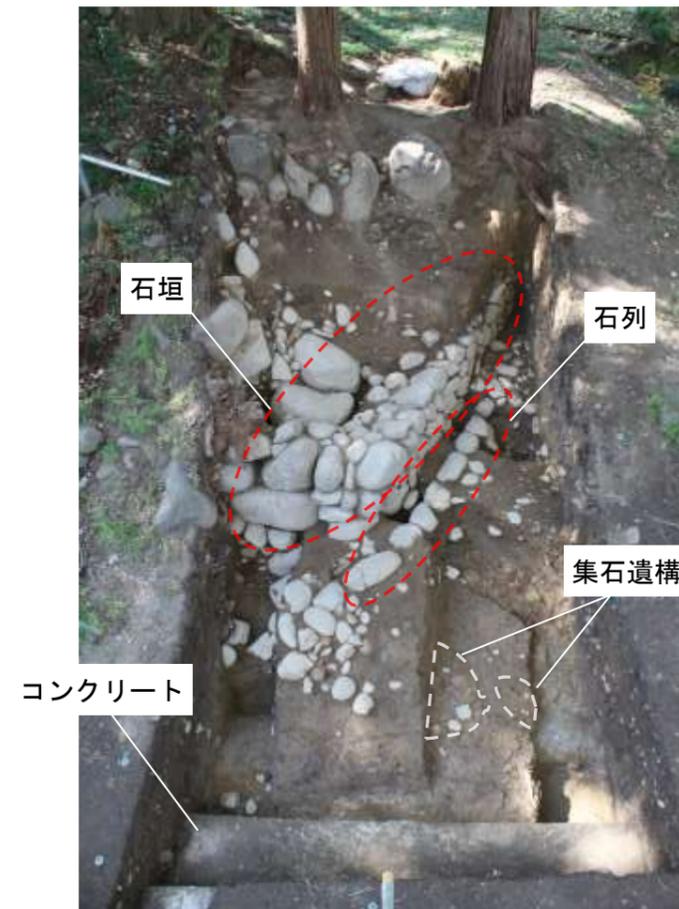
その他、北西に延びる石垣の前面で、石垣に平行する石列を検出した。20～40cm 程度の石材を北西方向に並べ、最も東側の石材は軸がやや東にずれる。また、一部、掘り下げた箇所では、上面に小さな礫が集まる円形の遺構を検出した。調査区東端では調査区を横断するコンクリートを検出した。



①登城路跡 3 次調査区 調査前状況（東から）



②登城路跡 3 次調査区 調査前状況（北東から）



③登城路跡 3 次調査区 完掘状況（東から）



④石垣・石列検出状況（北東から）  
石列の検出面が、19 世紀以降の登城路の路面と考えられる。



⑤コンクリート検出状況（北東から）  
コンクリートは 2 段になり、巽門跡の調査で検出されたコンクリートと同じ可能性がある。



⑥登城路跡 3 次調査区 南壁断面（北から）



⑦登城路跡 3 次調査区 北壁断面（南東から）

I 層：レンガ・ガラス片を含む層。熱で変形したガラスを含む。 II 層：レンガを含む層。  
III 層：19 世紀以降の遺物を含む層。 IV 層：陶磁器・瓦片を含む層。江戸時代の整地土の可能性ある。



⑧ 石垣背面の土層（東から）  
石垣の裏込めには土が使われ、その中に 10～20cm 大の川原石が含まれる。また、かなり大きな石材も埋められている。



⑨ 石垣前面の土層（東から）  
19 世紀以降の遺物を含む層の下には、凝灰岩を敷き詰めた層があり、調査区北側の広範囲に広がっている。



⑩ 北に延びる石垣（東から）



⑪ 北西に延びる石垣と石列（東から）



⑫ 北に延びる石垣の下部（東から）  
石垣石材直下の石は石材を据えた際に使用された石材と考えられる。



⑬ 下層で検出した集石遺構（北東から）  
礎石などの根固めの可能性もあるが、一部でしか検出していないため、性格は不明である。

## 2) 第 33 次調査（三の丸土塁 5 次）の成果

[調査目的] 江戸時代の土塁形状の確認および土塁上の遺構の有無の確認

- ・土塁盛土の残存状況を確認し、廃城後の改変の有無を明らかにする。
- ・絵図でみられる土塀の痕跡を確認し、その位置を明らかにする。

[調査期間] 令和元年 7 月 1 日～9 月 30 日（予定）

[調査面積] 1 区:約 31 m<sup>2</sup> 2 区:約 12 m<sup>2</sup>

[調査成果] 1 区については、表土直下で土塁の積み土と考えられる盛土層を確認した。盛土層は混入物が少なく、遺物はまったく含まれていない。また、ごく小さな川原石を集めた円形の遺構を検出した。

2 区については、表土層の下層で土塁の積み土と考えられる盛土層を確認した。盛土層は、地山に含まれる凝灰岩や円礫が多く混入し、調査区東側で特に多く、瓦片はごく少量出土した。2 区の南西部では、盛土層上面から集石が検出され、石に混じって瓦も多く検出された。また、調査区東側で、明治時代以降の植栽や風倒木の跡と考えられる痕跡が多く検出された。

これまでの調査で、三の丸東側の土塁上からは、江戸時代と考えられる土塀などの明確な痕跡は見つからず、今回の調査でもその痕跡が検出されていないことから、仙台城が廃城となった頃には、土塀などの構築物が残されていなかったことが、調査により明確になってきた。また、2 区の場合は、江戸時代の絵図で土塀の表現は見られる場所であるが、調査で土塀の痕跡が見つからないことは、三の丸東側の土塁が江戸時代に何度も修理される中で撤去された可能性を示していると考えられる。



①三の丸土塁 5 次調査 1 区 調査前状況（北から）



②三の丸土塁 5 次調査 2 区 調査前状況（南西から）



③三の丸土塁 5 次調査 1 区 完掘状況（北から）



④三の丸土塁 5 次調査 2 区 完掘状況（東から）



⑤三の丸土塁 5次調査 1区 北壁断面 (南西から)



⑥三の丸土塁 5次調査 2区 北壁断面 (南西から)



⑦1区 検出遺構掘削状況 (南西から)



⑧ 2区 集石遺構 (北から)  
集石は少なくとも 3.0×2.0m の範囲に広がっている。

図中番号	土塁の位置の名称
①	隅櫓～中門
②	五色沼南
③	長沼北
④	長沼西
⑤	三の丸中
⑥	三の丸西南

土塀の位置区分と仮の名称

絵図における三の丸周辺の土塀の記載状況

No.	絵図の名称	年代	土 塁 の 位 置						三の丸の呼称	備考
			① 隅櫓～中門	② 五色沼南	③ 長沼北	④ 長沼西	⑤ 三の丸中	⑥ 三の丸西南		
1	奥州仙台城絵図	1645(正保3)	○	×	×	×	×	○	蔵屋敷	幕府提出図
2	仙台下絵図	1664(寛文4)	○	○	○	×	○	○	御米蔵	詳細図
3	仙台下絵図	1668～69(寛文8・9年)	?	?	?	?	○?	?	無し	概略図
4	仙台下絵図	1669(寛文9)	○	×	×	×	○	○	御米蔵	詳細図
5	仙台城絵図	1673～82(寛文13～天和2)	○	○	○	×	○	○	蔵屋敷	詳細図
6	仙台下絵図	1673～83(延宝～天和年間)	○	○	○	×	○	○	御米蔵	概略図
7	仙台下大絵図	1678～80(延宝6～8)	○	○	○	×	○	○	御米蔵	詳細図
8	奥州仙台城并城下絵図	1682(天和2)	○	×	×	×	×	○	東丸	幕府提出用
9	仙台下五釐卦絵図	1691～1692(元禄4・5年)	○	×	×	×	×	○	東丸	詳細図
10	仙台城普請窺絵図	1721(享保6)	○	×	×	×	×	○	東丸	詳細図
11	仙台下絵図	1724(享保9年)	○	×	×	×	×	?	無し	概略図
12	仙台下絵図	1751～71(宝暦・明和年間)	○	×	×	×	×	○	東丸	概略図
13	仙台下絵図	1786～89(天明6～寛政元年)	○	×	×	×	×	○	東丸	詳細図
14	安政補正改革仙府絵図	1855～56(安政2～3)	○	×	×	×	×	○	東丸	詳細図
15	仙台旧青葉城之図	1876(明治9)	?	?	?	?	×	?	無し	測量図

表 1 三の丸(東丸)被災・修復履歴

年	月	内容	原因	参考資料		
1	天和1	1681	11	(前略)東丸西之方土手崩候付而土手下土留石垣仕、土手築直之事、(中略)東丸東之土手崩候所并孕候所三ヶ所、築直事、巽之門東脇土手下土留石垣壹ヶ所、崩候石垣貳候所、折廻共築直之事、(後略)		老中奉書写
2	元禄7	1694	11	(前略)東丸巽之門右脇石垣、子之門両脇石垣、崩候付築直事、沢曲輪清水門右脇石垣落候所繕之事、(後略)		老中奉書写
3	宝永4	1710	9	(前略)一、子之門東脇土手式ヶ所、連々崩申候、(後略) (前略)子之門東脇土手式ヶ所、(後略)		治家記録 老中奉書写 仙台城修復窺絵図
4	享保2	1717	9	(前略)東之丸南之方土手式箇所、同所子門東脇土手三箇所、(後略)	地震・大雨	老中奉書写
5	享保6	1721	7	(前略)一、東丸西土手一箇所、高十二間巷尺、幅三間半ヨリ五間半迄走申候、一、同所東土手三箇所、内一箇所、高二間、幅三間走申候、一箇所、高三間、幅五間走申候、一箇所、高六間、幅十七間走申候、(後略)	大雨	治家記録
			11	(前略)一、同所東丸土手五拾八坪崩申候、一、同所東丸土手五百拾坪余崩申候、一、同所子門東脇土手三ヶ所=三、百拾坪余崩申候、(後略)	大雨	仙台城修復窺絵図
6	元文1	1736	5	(前略)一、東丸子門東之方土手下石垣一箇所、七坪程崩孕、一、巽門外南之方川端石垣一箇所、一坪程孕、(後略)	地震	仙台城普請奉窺御絵図 治家記録



『奥州仙台城絵図』(部分)  
仙台市博物館所蔵



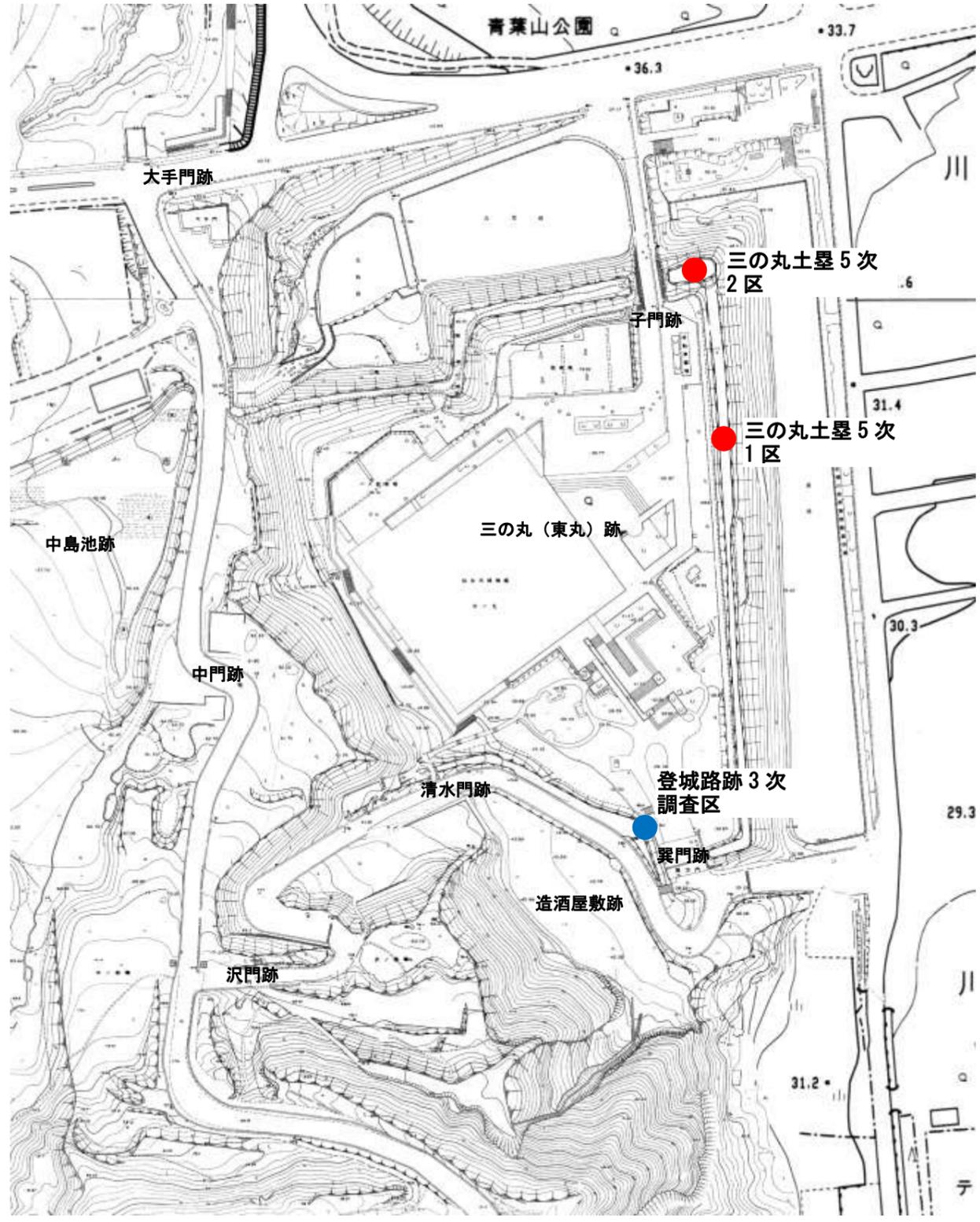
『仙台下絵図』(部分)  
宮城県図書館所蔵



『奥州仙台城并城下絵図』(部分)  
宮城県図書館所蔵

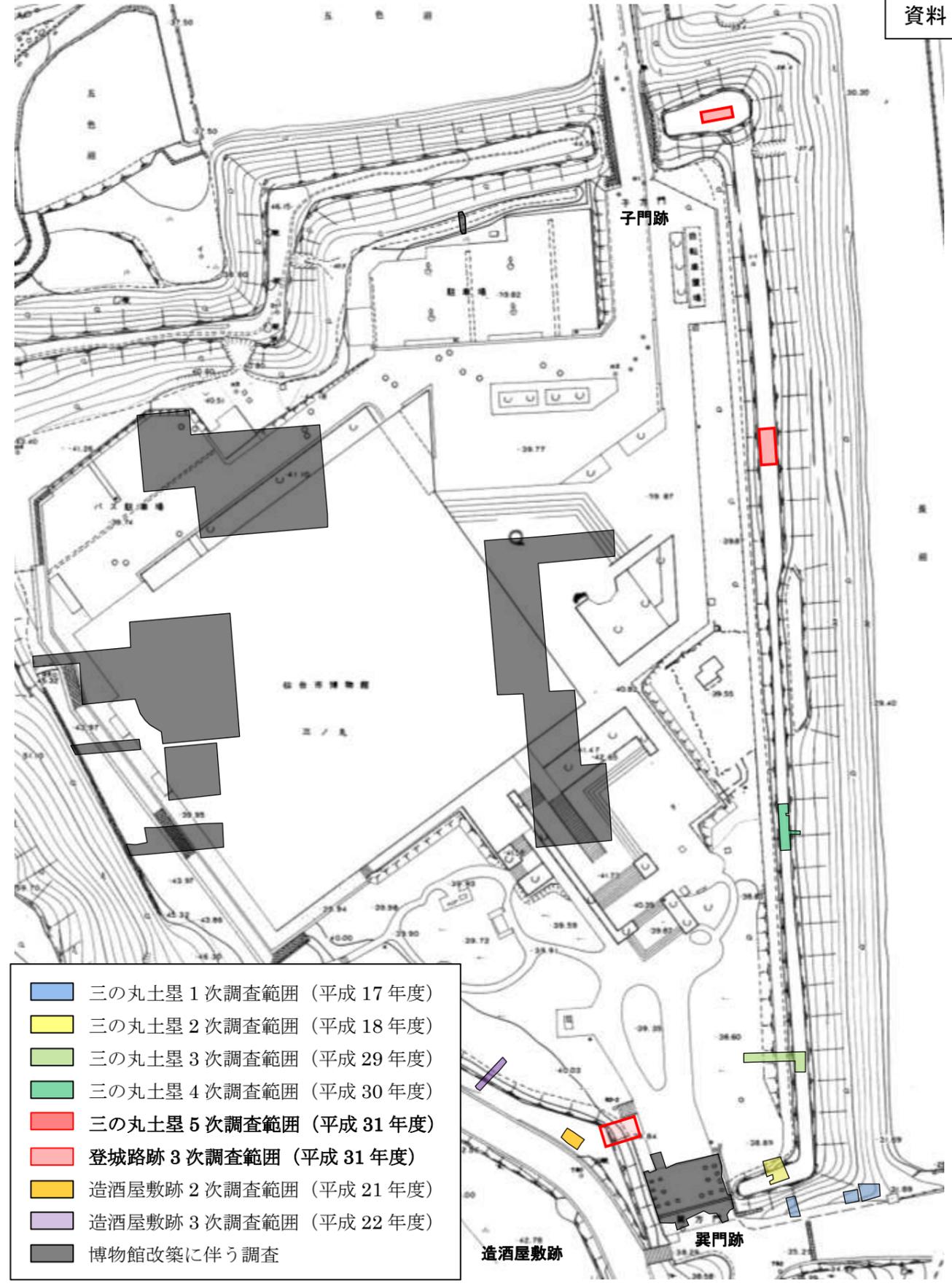


『仙台旧青葉城之図』(部分)  
宮城県公文書館所蔵



- 三の丸土塁調査区
- 登城路跡調査区

第 32・33 次調査 調査区配置図 (1/2,000)



三の丸(東丸)調査区配置図 (1/1,000)

### 3) 仙台城跡第 34 次調査（清水門北側石垣測量）について

[調査目的] 登城路跡周辺石垣の現況確認および整備のための基礎データの収集

[調査期間] 令和元年 6 月 14 日～12 月 20 日（予定）

[測量面積] 約 34 m<sup>2</sup>

[測量内容] 清水門北側石垣（5 面）について、石垣立面のレーザー測量を行い、立面図および縦横断面図の作成を行った。また、清水門北側石垣の前面にある礎石の測量・図化も行った。

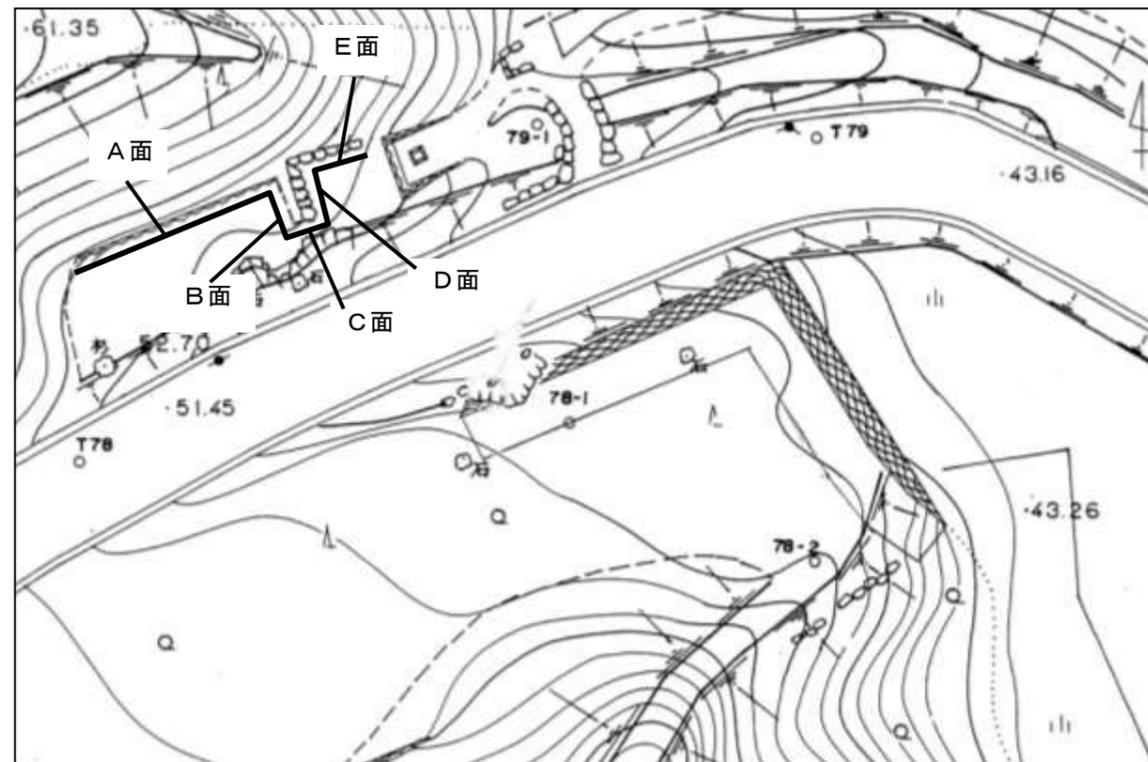
[調査状況] 測量が終了し、図化作業もほぼ終わっている状況であり、現在は図面の校正を行っている。また、出来上がった図面をもとに石垣の特徴や変形の有無を検討し、現状を確認している。



③D・E 面（南東から、20020131 撮影）

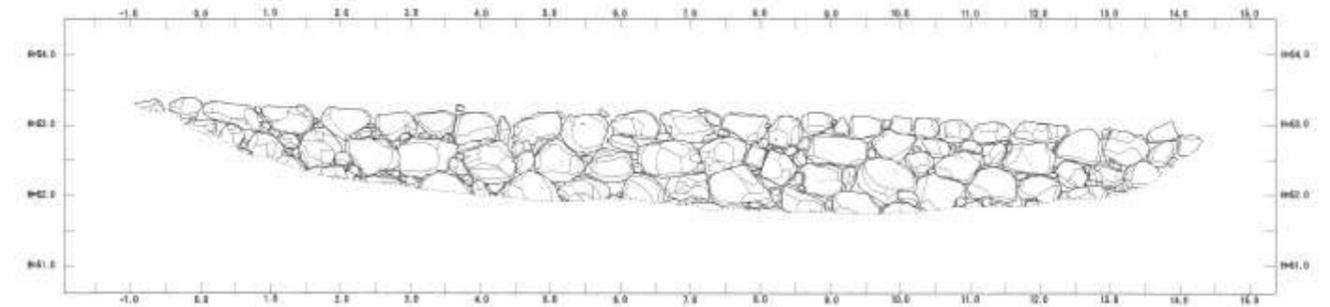


④D・E 面（南東から、20190703 撮影）

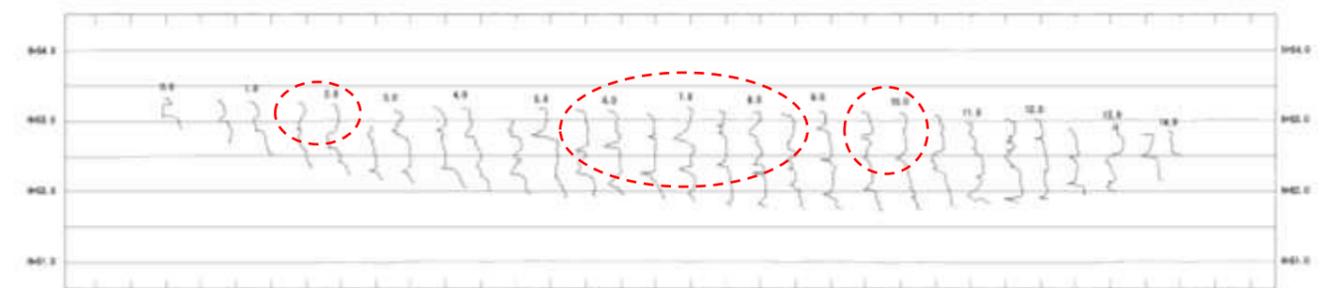


清水門北側石垣 面の名称

A面  
立面図



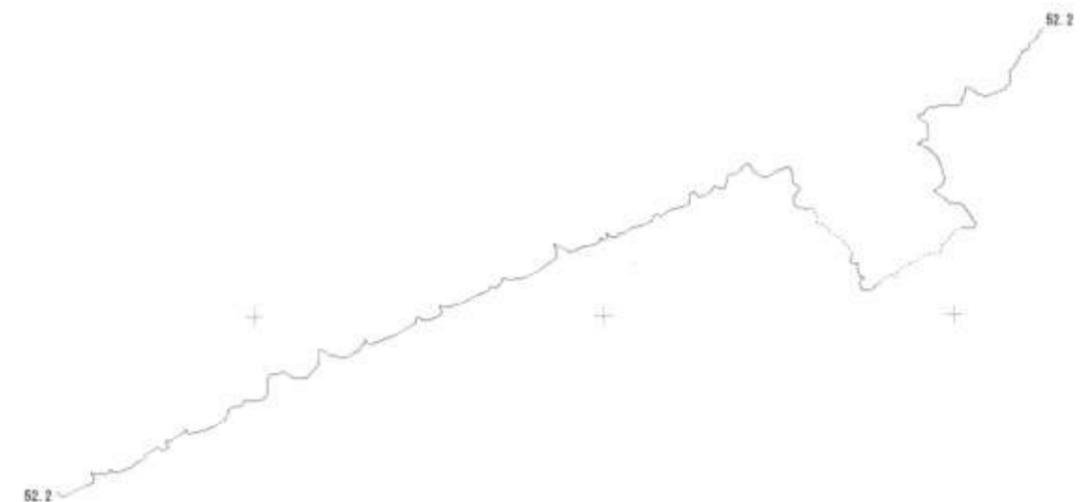
縦断面図



①清水門北側石垣全景（南東から、20020131 撮影）



②清水門北側石垣全景（南東から、20190708 撮影）



⑤清水門北側石垣測量図（S=1/100）



⑥清水門北側礎石 全景（北西から）



⑦清水門北側礎石 側面（南から）



⑧清水門北側礎石 下部（南東から）



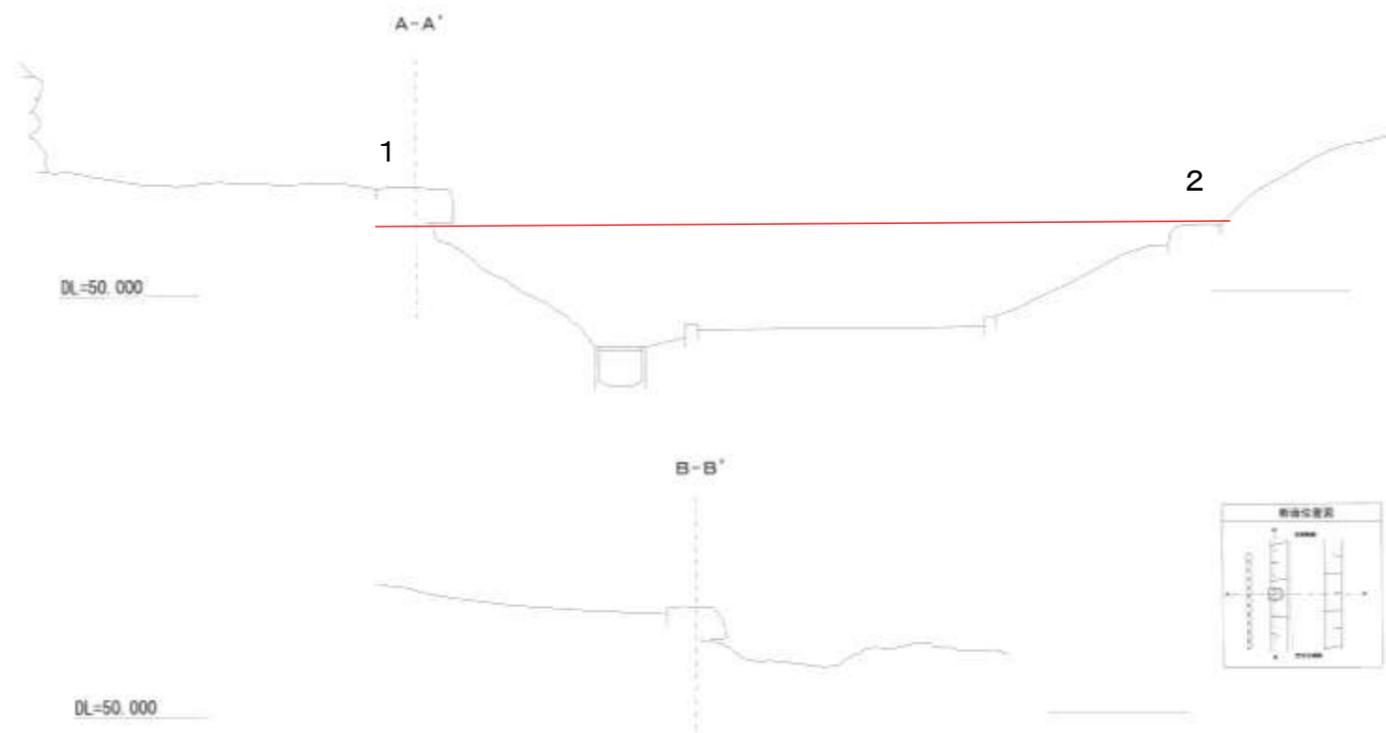
⑨清水門跡に残る礎石（北東から）

#### 4) 造酒屋敷跡総括報告書の進捗状況について

##### 目次案

##### 造酒屋敷跡調査の総括

- 1. 遺構・・・・・・・・・・・・・9 頁
- 2. 遺物・・・・・・・・・・・・・8 頁
- 3. 文献・絵図
  - (1) 絵図・・・・・・・・・・・・・4 頁
  - (2) 榎森家関係文書・・・・・・・・・4 頁
  - (3) 政宗関係文書・・・・・・・・・4 頁
  - (4) その他関係文書・・・・・・・・・4 頁
- 4. 考察
  - (1) 遺構の変遷(絵図含む)・・・・・・・・・3 頁
  - (2) 遺物の変遷・・・・・・・・・2 頁
  - (3) 酒造関係遺構・遺物・・・・・・・・・2 頁
  - (4) 文献(榎森家関係と政宗関係)
    - ・・・・・・・・・・・・・2 頁
- 5. 総括(造酒屋敷跡の評価)・・・・・・・・・1 頁



⑩清水門北側礎石断面図 (S=1/100)